

「公民対話の機会」対話テーマ

名古屋市におけるスポーツ医・科学の取組について

所属	スポーツ市民局スポーツ推進部スポーツ振興課
概要	<p>本市では、アジア・アジアパラ競技大会を契機とした市民のスポーツへの関心の高まりを一過性のものとせず、スポーツ実施率の向上やスポーツを通じた健康寿命の延伸につなげたいと考えている。</p> <p>また、スポーツ庁の「地域におけるスポーツ医・科学支援の在り方に関する検討会議」(令和4年度)により、地域においてもスポーツ医・科学に関する取組の向上や連携についての提言がなされている。</p> <p>そのため、「スポーツ医・科学拠点施設」の整備に向けた検討を行うにあたり、本件施設の運営に係る民間事業者等との連携可能性について探りたい。</p> <p>※本件施設の取り扱い対象範囲は、備考欄《参考資料》参照</p>
意見交換したい観点や聞いてみたい点	<p>○スポーツ医科学における下記事項等について、本件施設の運営にあたり民間企業や大学等の当該事業への連携可能性について聞きたい。</p> <p>【項目】体力測定、メディカルチェック、データ分析、トレーニング、普及啓発 等</p> <ul style="list-style-type: none">・具体的には、どういった連携ができるか又は考えられるか・事業実施にあたり提供可能性のある技術やノウハウとして何が考えられるか。その際の課題等は何か。 <p>○連携する場合、どのような連携のかたちが考えられるか</p> <p>○連携にあたって想定される課題や懸念事項は何か。</p>
特に意見交換を希望する業種等	トレーニングジム、ヘルスケア事業、医療・検査・測定機器メーカー、スポーツ用品関係、動作分析、データ分析関係 など
これまでに実施した施策・関連事業等	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ医科学サポート事業（ジュニアアスリート向け）・検討状況 令和7年度 基本構想《調査中》
備考	<p>《参考資料》スポーツ医・科学拠点整備に向けた第1回有識者懇談会資料(抜粋)</p> <p>【関連施設】 横浜市スポーツ医科学センター</p>

スポーツ医・科学にかかる取り組みの柱(素案)及び取り組み例

スポーツ医・科学拠点整備
に向けた第1回有識者懇談会
資料より抜粋

1 安全・健康で継続的・効果的なスポーツの実施

子どもから高齢者まで誰もがスポーツ障害を予防しながら安全かつ健康的にスポーツを継続して楽しめるよう、スポーツ医・科学の幅広い知見を活かした支援を行います。また、競技特性だけでなく、子どもの発育など個々の状況に応じた効果的な支援を行います。

- 取組例**
- ・ 競技特性や運動状況、子どもの身体の発育等を踏まえたスポーツ障害の防止に係る助言・指導
 - ・ 健康面、体力面等の詳細なアセスメント（評価）やセルフチェックへの支援
 - ・ アセスメント（評価）に基づいたトレーニング、運動への必要なサポート
 - ・ 女性やパラスポーツ等の状況に応じたサポート
 - ・ 子どもから高齢者まであらゆる世代へ、スポーツを通じた健康増進に関する広報・啓発

2 競技力の向上

アスリートが持っている能力を維持・向上させ、パフォーマンスを最大限に発揮できるよう、スポーツ医科学の専門的な知見を活かした支援を行います。また、次世代を担うジュニアアスリートの育成支援等を通じて、新たなアスリートが誕生する好循環をつくります。

- 取組例**
- ・ 個々の競技・能力に応じたトレーニングプログラムの提案を始めとする必要なサポート
 - ・ チーム力強化のためのトレーニング指導、情報分析等のサポート
 - ・ 競技団体等と連携したジュニアアスリートの育成支援

3 サポート人材の育成・確保

スポーツ医・科学による各種支援には、必要なスキルや知識を有した専門人材が必要不可欠であることから、人材育成に資する取り組みを進めるとともに、関係機関等と連携しサポート人材の安定的な確保を図ります。

- 取組例**
- ・ ジュニアアスリート等の指導者に対する知識やトレーニング方法等の普及啓発
 - ・ スポーツ医科学支援に係る実践の場の提供等を通じた人材育成
 - ・ 関係機関との連携によるスポーツ医・科学サポート人材の確保

4 知見・データの活用・還元

各種支援等を通じてスポーツ医・科学に関する知見やデータの蓄積が期待できるため、大学等と連携し研究に有効活用するとともに、更なる効果的な支援の提供を行うことで市民に還元できる仕組みをつくります。

- 取組例**
- ・ 蓄積した知見やデータを活用した大学等による研究・交流支援
 - ・ 研究結果等を基にした情報発信や支援の還元

スポーツ医・科学にかかる本市の取り組みの主な対象（素案）

支援の対象	地域への展開手法	主な支援機能の範囲								
		アセスメント			サポート					
国際大会連続メダル獲得	HPSCによるトップアスリートへのフルパッケージ支援	トネ	フィジカル	メディカル	栄養	心理	フィジカル	映像・IT	動作	レース・ゲーム
シニア日本代表 国際大会メダル獲得		スチ	チエック	チエック	サポート	サポート	トレーニング	サポート	分析	分析
年代別日本代表レベル	HPSCとの連携が可能な支援を推奨									
全国大会上位8位以上	アスリートのレベルに応じ、内容や頻度は濃淡をつけて実施 PTやトレーナーと連携したスクリーニング(※)									
全国大会出場レベル										
都道府県大会出場レベル										
学校運動部活動 等	最新の医科学情報の展開・相談窓口 e-ラーニング等のオンラインの活用、 セルフスクリーニング（体験会等）									
スポーツへの参加	スポーツ医・科学の知見を活用した地域住民の健康増進の取組									
身体活動の実施										

本市の取り組みの主な対象（素案）

競技レベル

実情に応じて取り組む対象・範囲

現在の対象・範囲

今後求められる対象・範囲

※1 灰色の箇所は地域に求められるスポーツ医・科学支援機能の範囲を示している。
 ※2 スクリーニングとは、スポーツ外傷・障害・疾病を有する確率の高い人を選別する方法。セルフスクリーニングはアスリート自身で行う方法のこと。